

タゾバクタム/ピペラシリン投与患者における血清カリウム値の調査

吉田紗季 中山奈美 松本敏明 柴田直子 瀬川和子 横田聖子

演題分類：有害事象・副作用

発表形式：ポスター発表

【目的】

抗菌薬であるタゾバクタム/ピペラシリン（以下 TAZ/PIPC）は 2020 年 10 月に重大な副作用として低カリウム（以下 K）血症が追記されており、血清 K 値の定期的な測定が重要であると考えられる。本検討では TAZ/PIPC 投与による血清 K 値低下を起こした患者の背景を調査した。

【方法】

2020 年 10 月から 2021 年 5 月までの TAZ/PIPC 投与患者 104 名を対象とし、年齢、性別、体重、血清クレアチニン値、血清 K 値について電子カルテを用いて後方視的に調査した。今回、K 低下とは血清 K 値が 3.5mEq/L 以下となることと定義し、投与期間中に一度でも血清 K 値が 3.5mEq/L 以下となった患者を K 低下群とした。

【結果】

K 正常群、K 低下群において平均年齢、平均クレアチニンクリアランス（以下 Ccr）に有意差はなかった。Ccr によって分類した腎機能正常、中等度低下、高度低下の 3 群において、男性と女性の K 低下発生率を比較したところ、3 群すべてで女性の発生率（%）が高かった（35.3vs40.0、41.5vs69.2、29.4vs33.3）。また、K が低下するまで毎日もしくは隔日で採血を行っていた 22 例において、投与開始から平均 3.2±1.1 日で K 低下が判明した。さらに、K 低下を起こしやすいループ利尿薬を併用している患者は 13 例であり、非併用時の K 低下発生率は 40.7%であったのに対し、併用時は 46.2%であった。

【考察】

有意差はなかったものの、K 低下群は女性が多い傾向があった。また、K 低下の判明日は 2～4 日であった。さらに、ループ利尿薬の併用によりわずかに発生率が上昇する可能性が示唆された。

【結論】

TAZ/PIPC 投与時には、ループ利尿薬を併用しており、腎機能が低下している高齢女性は特に血清 K 値のモニタリングを強化すべきであると考えられる。医師へ投与開始後 2～4 日程度で検査の提案を行うことで低 K 血症の早期発見につなげ、より安全な薬物療法が行えるように努めていきたい。

(773 文字：400～800)